

## 令和5年度 再評価点検表（内部評価）

### 1 事業概要

事業名	下河内（4）地区 急傾斜地崩壊対策事業
担当部署	都市整備部河川室河川環境課砂防グループ（連絡先 06-6944-9302）
事業箇所	南河内郡河南町大字下河内
再評価理由	・事前評価後、資材高騰等により全体事業費が増大する見込みとなった。
事業目的	「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」に基づき、がけ崩れより、府民の生命を守るため、がけ崩れの恐れのある急傾斜地において急傾斜地崩壊防止施設を設置し人家 24 戸、府道 365mを保全する。
事業内容	急傾斜地崩壊対策工 法面工 L=365m
事業費 （ ）内の数値は 前回評価時点のもの	全体事業費 : 約 7.0 億円 (約 3.5 億円) 〔国 : 3.15 億円、府 : 3.15 億円、受益者負担金 : 0.7 億円〕 投資済事業費 (令和4年度末) : 約 3.9 億円 (約 0.0 億円) (内訳) 調査費等約 0.60 億円 (約 0.20 億円) うち投資済事業費 : 0.36 億円 用地費 約 0.00 億円 (約 0.00 億円) うち投資済事業費 : 0.00 億円 工事費 約 6.40 億円 (約 3.30 億円) うち投資済事業費 : 3.57 億円
事業費の変更理由	資材高騰（コンクリート等）、人件費高騰による。
維持管理費	補修費用 : 0.5 億円/50 年 (砂防施設における近年の補修実績を基に算出した)

### 2 事業の必要性等に関する視点

	【事前評価時点 H29】	【再評価時点 R5】	【変動要因の分析】
事業を巡る社会 経済情勢等の変化	○災害発生の危険度 当該急傾斜地の周辺においては、風化による荒廃が進んでいることから、短時間の集中豪雨や長雨により斜面崩壊が発生する危険性がある。 ○保全対象 ・人家 : 24 戸 ・府道 : 365m	○災害発生の危険度 当該急傾斜地の周辺においては、風化による荒廃が進んでいることから、短時間の集中豪雨や長雨により斜面崩壊が発生する危険性がある。 ○保全対象 ・人家 : 24 戸 ・府道 : 365m	前回評価時から変動なし
地元等の 協力体制等	地元の要望を受けて事業に着手。防災事業として認識されており、事業に対する全面的な協力を得ている。	地元の要望を受けて事業に着手。防災事業として認識されており、事業に対する全面的な協力を得ている。 また、地域版ハザードマップを整備するなど地域防災活動に取り組んでいる。	
	【事前評価時点 H29】	【再評価時点 R5】	【変動要因の分析】
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	[効果項目] 資産被害抑止効果 人身被害抑止効果(逸失損失) [分析結果] B/C=4.00 B=12.33 C=3.08 [算出方法] 急傾斜地崩壊対策事業の費用便益分析マニュアル(案) H11.8 各種資産評価単価及びデフレクター H29.2 改正 [受益者] 急傾斜地崩壊危険区域内 住民及び施設管理者	[効果項目] 左記に同じ [分析結果] B/C=4.08 B=29.21 C=7.16 [算出方法] 急傾斜地崩壊対策事業の費用便益分析マニュアル(案) R3.1 各種資産評価単価及びデフレクター R5.6 改正 [受益者] 急傾斜地崩壊危険区域内 住民及び施設管理者	・急傾斜地崩壊対策事業の費用便益分析マニュアル(案)の改訂に伴う被害額算出方法の変更 ・資材高騰、人件費高騰による事業費の増大 ・施工計画や施設配置計画の再精査による事業費の増大 ・事業長期化に伴う投資効果の減少 ・維持管理費の見直しによる事業費の増大

事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)	<p>[効果項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心：対策施設の整備により、急傾斜地崩壊危険区域内住民、府道を通行する車両の安心感が向上する。</li> <li>・安全：対策施設の整備により、土砂災害警戒区域の安全性が飛躍的に向上する。</li> <li>・活力、快適性：対策施設の整備により、府道の通行止めリスクを軽減する。</li> </ul> <p>[受益者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急傾斜地崩壊危険区域内住民及び施設管理者</li> </ul>		
事業の進捗状況 <経過> ①事業採択年度 ②事業着工年度 ③完成予定年度	① H30年度 ② H30年度 ③ H35年度	① H30年度 ② H30年度 ③ R10年度	法面工の施工に当初の想定以上の日数を費やしたため
<進捗状況>		・全体 56%	
事業の必要性等に関する視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法面工の施工に当初の想定以上の時間を要しているが、事業の必要性について変わらない。</li> <li>・また、全体事業費の増大に伴い費用対効果を算出したところ <math>B/C=4.08</math> であり、施設整備による経済的便益性を確認できる。</li> </ul>		

### 3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法面工の施工に当初の想定以上の時間を要したが、令和10年度完成を見込んでおり、事業の必要性についても変わらないため、引き続き法面工を施工する。</li> </ul>
--------------	--

### 4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本箇所斜面においてがけ崩れの被害を防ぐには、斜面の崩壊を直接防止する法面工以外の工法は無く、代替案立案等の可能性の余地はない。</li> <li>・現場発生土については、他工事で流用するなどコスト縮減を図る。</li> </ul>
---------------------	---

### 5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本箇所の対策工設置斜面においては中高木が存在しないため、工事による伐採等の影響はない。なお、掘削範囲を最小限にするなど、自然環境への影響を極力軽減する。</li> </ul>
前回評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応	—
上位計画等	大阪府都市整備中期計画 (R3.3)
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>(土砂災害防災情報の提供)</li> <li>・市により土砂災害ハザードマップが整備済み。</li> <li>・土砂災害警戒情報発表時には市とホットラインを構築し、府民が適切に避難行動をとれるように情報提供を行っている。</li> </ul>

### 6 評価結果

評価結果	<p>○継続</p> <p>&lt;判断の理由&gt;</p> <p><b>【事業の必要性等に関する視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法面工の施工に当初の想定以上の時間を要しているが、事業の必要性について変わらない。</li> <li>・また、全体事業費の増大に伴い費用対効果を算出したところ <math>B/C=4.08</math> であり、施設整備による経済的便益性を確認できる。</li> </ul> <p><b>【事業の進捗の見込みの視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法面工の施工に当初の想定以上の時間を要したが、令和10年度完成を見込んでおり、事業の必要性についても変わらないため、引き続き法面工を施工する。</li> </ul> <p><b>【コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本箇所の斜面においてがけ崩れの被害を防ぐには、斜面の崩壊を直接防止する法面工以外の工法は無く、代替案立案等の可能性の余地はない。</li> <li>・現場発生土については、他工事で流用するなどコスト縮減を図る。</li> </ul> <p>以上より、事業を継続する。</p>
------	---

令和5年度 再評価 (下河内(4)地区 急傾斜地崩壊対策事業)

